

農業委員会だより

写真の記事

堀金下堀周辺では冬場に約20戸の農家がビニールハウスの中でタラの芽を栽培しています。写真は生育状況を確認する塚田さん。



春の息吹! タラの芽



表彰者

2月20日平成18年度農業活性化推進研修会(松本合庁)での表彰者を紹介します。

三郷 本田 耕 さん



この度は関係者の方々のご配慮により表彰をしていただきありがとうございます。地域の皆様、作業にご支援ご協力の皆様の御陰と思っております。19年度より品目横断的経営安定対策が実施される中、担い手大規模経営者だけを対象にした農業政策でよいのか、今日まで日本の農業を支えて来た小規模兼業農家を切り捨ててゆくのか、地域全体で考えてゆくべきか、といった方法があるのではないかといろいろ模索しているところです。名前のとおり「ほんでんたがやす」今後も農業に頑張っており、今後いこうと思っております。

堀金 青柳 正幸 さん



県農業大学の卒業を期に、専業農家として歩み40年。減反などの国の方針を積極的に進め、二作奨励による土地利用型農業が軌道に乗った頃、そば作付け後の麦作栽培禁止が厚生省から発表され、公共施設への麦搬入禁止指導を受け、自力で乾燥調整を行なうことに踏み切りました。麦専用乾燥機の新設と、フルカラー色彩選別機を設置。順調に稼働することを確認し、現在40ha超の麦作経営をしております。今後、農業委員さんや地域の皆様に協力させていただき、集落営農組合の発展、成功に向け努力していきたいと思っております。

フルカラー色彩選別機…1粒単位のカラー映像によって穀物等の選別を行なう機械

農業委員視察研修に参加して

石川県白山市 集落営農(有)「ファーム坊の森」

石川県白山市宮永集落は、農家数15戸非農家数65戸、水田79haの平地集落で、65歳以上の高齢者が5割を占め、9割が兼業農家であるため、後継者不足が急速に進み、中核農家への農地利用依存が増え、集落機能が低下しつつあった。そこでアンケート調査を行った。その結果を踏まえ平成15年12月に賛同した23戸で任意組合を設立した。平成16・17年度の地域農業育成事業(2000万円の助成金)で大型機械の購入が可能となり、更には新たな品目横断的経営安定対策の枠組に位置づけられたことを契機に、平成17年4月に農業生産法人の認定を受けた。現在、集積面積は30haで将来的には53haに拡大したいとしている。農業機械のオペレーターは事務も同時に行なっており、設備は最小限で育苗も構成員が以前から所有している。ハウスを借用しておこなっている。経営を成り立たせるためには今後、ますます工夫が必要だと強調されている。安曇野市においてもいくつかの集落営農が誕生し新たな経営体制に入りつつあるが、確固たる運営を行なっていくには、地域の特性を踏まえ、個々の構成員がやる気と実行力を発揮し、リーダーを核として一致団結することが成功の鍵といえるのではないかと感じた。

市川末登委員

福井県越前市 エコ・グリーンツーリズム「ロハス越前」

今回研修視察した旧今立町(平成17年合併)は古くから越前和紙の里として知られ、織機・眼鏡・漆器など手工芸的な地場産物が盛んで、農業は第2種兼業農家の多い地域である。このグリーンツーリズムの取り組みは平成8年自然公園整備事業がきっかけで始まり、地区内の自然環境や産業施設活用による体験型観光へと内容も広範囲にわたる活動展開である。特に農業との結びつきを深める事業では、平成15年「田んぼのオーナー制度」を発足、平成16年農家民宿に取り組み、翌17年農家民宿を開始、また各種体験コースを企画提供し、都市と農村の交流促進、農村の活性化の実現に寄与している。説明された事務局長はこの事業に当初から関心を持って積極的に行動し、10年を経過して、更に都市と農村が共存していくために充実した事業展開と情報発信に大きな夢を抱いている。いっそうの活躍を期待する。

連井八喜男委員



福井県越前市でグリーンツーリズムの説明を受ける農業委員

●主な内容●

- 安曇野市の集落営農組織紹介……………2
- 荒廃していた農地が
□ よみがえりました……………2
- がんばる農業者……………3
- 集落営農の必要性……………3
- 12月3・4日北陸方面
□ 農業委員会視察研修の報告……………4
- 表彰者……………4

農政の動き

農業・農政を巡る情勢は、担い手の高齢化、遊休農地の増加、また凍結されたWTO・FTA交渉への対応など農業の発展にとって極めて深刻な問題が山積しております。こうした中、4月から品目横断的経営安定対策が導入されます。長野県にとっては特に重要な果樹・野菜等の品目別経営安定対策や、農地・水・環境保全向上対策といった新しい取り組みも実施されることになっていきます。この新しい対策についてはまだ具体的な施策がはつきりしているとはいえないところですが、今後はこれらの施策を生かし農村現場で成果を上げることが重要となっていきます。

農業委員会は優良農地の確保と有効利用、担い手の育成といった役割と同時に農家以外の皆様とも連携し地域の課題解決に努力いたします。

会長 金森伊継

発行日/平成19年3月15日
編集と発行/安曇野市農業委員会
安曇野市三郷明盛4810番地1
tel 0263(77)3111

農業委員会事務局ホームページアドレス
<http://www.city.azumino.nagano.jp/gyosei/kakuka/nogyo/index.html>

編集後記

近年私の地区では、蛙が極端に減少しています。農家は安全安心な農産物の供給に苦慮しています。が、減化学肥料・減農薬の特色有る米作りの振興に蛙がかかわっています。今までは昆虫を蛙が捕食していましたが、カラスが田に大量に飛来し「おたまじゃくし」を食いつぶしてあり、「無法者」のカラスのために昆虫が発生し始めています。なにか良い方法があれば教えてください。

編集委員長 望月 裕明

農業委員会川柳

- 落ぼこが
松飾見て首すくめ
畠山
- 草花も
地球温暖はいびき
横川
- 年寄りの
早寝早起き農守る
藤原
- 春日和
あせ草焼いて農行る
長崎